

第 5 7 回「電波の日」総務大臣表彰

1 個人：3 件

(敬称略：五十音順)

氏 名	功 績 の 概 要
<p>あかし ひろよし(71歳) 明石 博義(71歳)</p> <p>財団法人九州移動無線センター理事長</p>	<p>多年にわたり、財団法人九州移動無線センター理事長として MCA 陸上移動通信システムの普及発展に尽力し、地方公共団体が進める防災やコミュニティ情報伝達システムの整備を支援するなど電波の有効利用の推進に多大な貢献をした。</p>
<p>さいとう まさお(73歳) 齋藤 正男(73歳)</p> <p>東京大学名誉教授、 東京電機大学名誉教授</p>	<p>電気通信技術審議会電磁防護委員会委員長代理として、我が国最初の電波防護指針策定をはじめ、世界の電磁環境問題に関する調査・研究を推進するとともに、電波の安全性に係る研究の推進に尽力した。</p>
<p>ひらた やすお(65歳) 平田 康夫(65歳)</p> <p>株式会社 KDDI 研究所 代表取締役会長</p>	<p>昭和 42 年以来、デジタル衛星通信システムの研究開発に従事し、特に、通信品質の向上や通信容量の増大に絶大な効果のある高能率誤り訂正技術を発明開発し、その技術をもとにデジタル移動体衛星通信システムの実用化を達成した。本発明による誤り訂正技術は、インマルサット海事衛星通信システムのみならず、日欧の衛星・地上波デジタル放送システムなどにも幅広く適用され、情報通信の発展に顕著な功績を挙げた。</p> <p>また、その豊富な経験、知識等を活かし、昭和 63 年から平成 12 年まで電気通信技術審議会移動業務専門委員会主査、平成 13 年から平成 15 年まで情報通信審議会専門委員を務めるとともに、昭和 61 年から平成 9 年まで国際電気通信連合無線通信部門 (ITU-R) の研究委員会 SG8 の副議長、平成 17 年から電波産業会規格会議の委員長を務めるなど、国内外の標準化活動にも積極的に取り組み、数多くの技術基準を策定し、移動体衛星通信の発展に多大な貢献をした。</p>

2 団体：3件

(敬称略：五十音順)

団 体 名	功 績 の 概 要
<p>社団法人 電波産業会 周波数変更対策本部</p> <p>(本部長 <small>いなもと よしあき</small> 稲本 佳昭)</p>	<p>平成13年に、電波法に基づき指定を受けた「指定周波数変更対策機関」の業務執行において、地上デジタルテレビ放送用の周波数を確保するために必要なアナログ周波数変更対策を着実に推進し、地上デジタルテレビ放送への全面移行に向けた環境整備に多大な貢献をした。</p>
<p>デジタル ブロードキャスティング エキスパートズ グループ (DiBEG)</p> <p>(委員長 <small>たかはし やすお</small> 高橋 泰雄)</p>	<p>多年にわたり、我が国の地上デジタル放送方式 (ISDB-T方式) の海外普及を目指し、セミナーでの講演やデモンストレーションの実施など現地での協力を精力的に行い、我が国の地上デジタル放送に関する啓発活動のみならず、技術的優位性等を示すなど普及活動の推進に尽力した。</p> <p>特に南米諸国への普及活動が実を結び、ブラジル連邦共和国の地上デジタル放送方式として ISDB-T方式が採用されるにあたって多大な貢献をした。</p>
<p>ブラジル テレビ・電気通信技術者協会 (SET)</p> <p>(会長 <small>ロベルト フランコ</small> Roberto Franco)</p>	<p>地上デジタル放送方式の日・米・欧3方式について、世界で初めて同一条件の下に比較実験を公正かつ公平に進め、技術的に極めて純粋、かつ、客観的な評価を実施するとともに、その結果をセミナー等で公表することにより、我が国の地上デジタル放送方式 (ISDB-T方式) が他の2方式に比べ技術的に優れた方式であることを第三者的立場から国際的に立証した。</p> <p>これにより、ISDB-T方式がブラジル連邦共和国の地上デジタル放送方式として採用され、国際普及の推進に多大な貢献をした。</p>